



季刊誌

さいがただより

National Hospital Organization Saigata Medical Center

2026年 新春号 Vol.48



発行：独立行政法人国立病院機構 さいがた医療センター 院長 佐久間 寛之 <https://saigata.hosp.go.jp/>
〒949-3193 新潟県上越市大潟区犀潟 468-1 TEL:025-534-3131 FAX:025-534-4824

〈基本理念〉「良い医療を安全に、心をこめて」

令和八年を迎えるにあたり

さいがた医療センター 院長 佐久間 寛之

皆さま、明けましておめでとうございます。

令和八年の新春を迎え、皆さまにとって本年が実り多き一年となりますことを、心よりお祈り申し上げます。

令和の時代となって八年目を迎えました。思い起こせば、令和元年（二〇一九年）は、現在とはずいぶん異なる社会状況でした。安倍総理は現役首相として在任され、物価は今ほど高くなく、為替相場もドル百八円前後と円高基調でした。新型コロナウイルスの流行はまだ起こっておらず、オンライン会議も一般的ではありませんでした。

ちなみに、この年の秋に発売された iPhone11 は七万五千円程度でしたが、現在の最新機種である iPhone17 は約十三万円と、価格はほぼ倍近くになっています。振り返ってみると、わずか七年の間に、物価をはじめ社会のさまざまな側面が大きく変化したことを実感します。

私たちさいがた医療センターも、この七年間で大きな変化を遂げました。当時は少数精鋭の医師を中心に、多職種連携による医療を行っていましたが、現在では医師数も増え、初期研修医・後期研修医が常時在籍する体制となりました。それにともない、若い医師たちへの教育や育成のニーズも高まっています。

当院の持ち味である風通しのよさと連携への意識を大切にしながら、教育と次世代育成にも力を注げるようになったことは、大きな前進であると感じています。

また、地域連携のあり方も大きく変わりました。当院では精神科医師が、上越総合病院および新潟県立中央病院に対して精神科リエゾン（身体科との連携）を行っているほか、県立妙高病院に対してはオンラインによるリエゾン診療も実施しています。これらの取り組みにより、より地域に密着した医療の提供が可能になったと考えています。

そしてこれらの取り組みの中心を担っているのは、当院の次世代を担う若い医師たちです。彼らの活躍は、さいがた医療センターにおける世代交代の象徴とも言えるでしょう。改めて振り返ると、この七年間で私たちは大きく歩みを進めてきました。

さて、今年はどうのような一年になるのでしょうか。未来を正確に予測することはできません。新型コロナウイルスの世界的流行を誰も予見できなかったように、今年何が起こるのかわかることは、誰にもできません。

しかし私たちは、地域との連携、院内の連携、医療の質の向上、そして次世代の育成といった、いま取り組むべきことを着実に進めてまいります。変化は決して突然起こるものではありません。一見すると急激に変わったように見える出来事背景には、かならず長年にわたる地道な努力があります。オンライン会議が急速に普及した背景にも、それを支えてきた多くの開発者の不断の努力がありました。

地域はいま、人口減少と高齢化率の上昇という大きな課題に直面しています。解決策は模索されていますが、容易に答えが出る問題ではありません。だからこそ、連携を深め、次世代を育成することは、いま確実に取り組むことのできる重要な使命です。たとえ画期的な少子高齢化対策が生まれたとしても、実際の医療現場で人と人とが連携し、次の世代を育て続けることなくして、良質な医療を継続することはできません。

私たちさいがた医療センターは、地域のため、そして未来のために、本年も力を尽くしてまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

「独立行政法人 国立病院機構 さいがた医療センター」

さいがた医療センターで提供している医療

当センターでは各診療科の専門性を活かしつつ、全人的医療を提供しています。

精神科

- 新潟県依存症専門医療機関・治療拠点機関として、依存症全般（アルコール、薬物、ギャンブル、ゲーム・インターネット等）の診療、および認知行動療法、作業療法、スポーツ、筋トレ、アロマ、女性プログラムなど様々な治療プログラムを提供しています。
- 精神科急性期医療だけでなく、治療抵抗性統合失調症に対してクロザピンの治療を行っています。上越地域で唯一クロザピンの使用が認められている医療機関です。
- 修正型電気けいれん療法（mECT）を行っています。
- 精神科デイケア・訪問看護ステーションで地域での暮らしを支援しています。

脳神経内科

- 主にパーキンソン病、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症の薬物調整・リハビリテーション目的の入院を受け入れています。
- 令和6年1月から療養介護事業所「つむぎ」を開所しました。（病床数24床 対象疾患 パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症等の神経難病）

重症心身障がい児(者)

- 一人ひとりのQOLの向上を考え、より豊かな生活となるよう環境づくりを行っています。
- 在宅の重症心身障がい児(者)のショートステイを受け入れています。

認知症医療

- 精神科、脳神経内科の各担当医師が連携して、幅広い視点から原因となる病気の特定に努めています。
- また、当院にはCTスキャン、MRIが設置されており、脳波計を用いたより精密な検査や臨床心理士による神経心理学検査も実施可能です。お気軽にご相談ください。

デイケア

- 当院では、社会生活機能の回復を目的として難病や精神障害を持つ人のデイケアを実施しています。
- 難病デイケアは、身体機能の維持・向上だけでなく、仲間づくりも支援しています。
- 精神科デイケアは、精神障がいの回復途上にある人が社会の中で自立した生活ができることを目指して実施しています。
- 令和6年5月より、りんどう（MCIデイケア）を開始しました。機能の維持やQOLの向上に向けたプログラムを実施しています。
- 見学や相談、参加希望の方はお気軽にご相談ください。

訪問看護

- 精神に障害がある利用者へ寄り添いその人らしく地域生活が送れるよう支援しています。
- 神経難病（指定疾患）の利用者に安心して在宅生活ができるよう訪問リハビリテーションを実施しています。

特殊外来

- 脳ドックがあります。
- 頭痛外来と睡眠時無呼吸外来は中止となりました。

共同利用

- MRI (1.5T)、CT (80列)、RI、脳波・神経伝達装置、超音波検査をご利用いただけます。

過去の講演会・研修会の動画は、YouTube さいがた医療センター公式チャンネル「SAI-チャンネル：さいがた医療センター」からご覧いただけます。



アクション
フォーラム
2026上越

Heart Beat スティグマをぶっ壊せ！

- 日時 2026年3月14日（土）13:00～
- 会場 上越文化会館

参加費
無料

Zoom参加も可

Zoom参加を希望の方は3/13(金)16時までに 226-kanrika@mail.hosp.go.jp あて「スティグマをぶっ壊せZoom参加希望」とご連絡ください。ミーティングIDとパスワードをお知らせします。現地での参加は連絡不要です。